全国保育問題研究会のみなさま

こんにちは。私たちは広島市安芸区矢野東にあります「ひだまり保育園」という認可外の保育園です。この夏の豪雨・土砂災害に際しまして、本当に何度も多額の支援をいただき、本当に本当にありがとうございました。

ひだまりは、園長の実家である民家を改築して30名あまりのこどもたちが暮らしている小さな園です。保育の柱として「泥んこあそび」「リズムあそび」「里山散歩」を掲げ、真夏以外は本当に毎日のように里山を走り回っています。そんな保育活動のなかでの今回の土砂災害でした。

園児が楽しく遊んでいるがらくた原っぱと呼んでいる園庭は、今回氾濫した矢野川に隣接しています。園前の橋に山から流されてきた大量の木が２ｍを超す高さのダムとなり、川は道路を駆け下り、家の中に砂と木をぶつけ、たった一時間の間に文字通り見たことのない風景に一変してしまいました。

こどもたちが冬になればリュウノヒゲの実を集める「龍の谷」は、川上から流れてきた大木が道をふさぎ、うっそうとしていた林は木がながされて明るくなっているほど変わりました。谷につながる道は、土がながされて穴だらけになり、農道脇の畑からながされた有刺鉄線が土の中に埋まっていたりしています。

町内では、亡くなった方が十二人もおられたのですが、ひだまりのある地区は家の中に大量の砂が入る・道路が崩れる・車が流されるなどの被害があり、四ヶ月経った現在でも、園前の橋の周りの道路の修理もまだ行われず、壊れたお家は砂に埋まったままというところもあります。

こどもたちは災害直後、雨が降る度に登園を嫌がったり、天気が悪くなってくると泣き出したりということがありました。大人だって、いつまでも解除されない避難勧告とくり返される警報音に不安なのですから、それは当然のことです。けれど、私たちは、東北の保育園のみなさんの実践で「津波ごっこ」をこどもたちが必要としているということを知っていました。庭の泥んこの池から水を流しながら「大雨のときとおんなじじゃあ！」とこどもたちが叫ぶのを、じっと見ていてやることができました。また、「雨降るのいやじゃねえ。まだ怖いようなよね。他の人が怖くなくなって、それでも自分だけ怖いのは当たり前のことじゃけんね。怖いいう気持ちは自分のものじゃけ、怖くないいうて思わんでもええんじゃけんね」と話すことができています。

被災直後から、広島保問研のみなさんを始め、毎日何十人もの方が長靴を履きスコップをかついで助けに来て下さり、全国からたくさんの支援物資がひだまりに寄せられ、私たちがどれだけ励まされたか分かりません。どうにかして園を開けて、こどもたちが安心して生活できるように。保護者さんが、１日でも早く普段の生活を取り戻せるように、できることからやっていく。それも日本各地の保育をつくっている仲間の皆さん方の実践を聞いてきたからです。私たちだけでは、こんな風にできなかったと本当に思います。

たくさんの仲間とつながっている。それが、どれだけ心強く、力になったかわかりません。

いただいたお金で、濁流でグラグラになった川沿いのフェンスを修理し、流れてしまった庭の土をいれさせていただきます。

本当に本当にありがとうございました。

ひだまり保育園　園長檀上由香

犬の糞(フン処理)は
飼主の責任です
マナーを守って清潔に!!
矢野町公園協

ひだまり保育園

米所